



# ニーズマッチングin 埼玉医科大学 総合医療センター

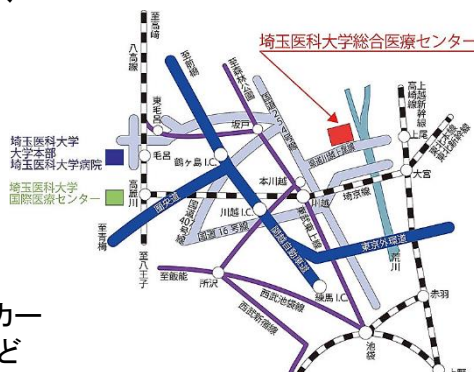
2019年 7月30日(火)  
17:00~19:00

埼玉医科大学総合医療センター  
本館5階 大講堂  
(川越市鴨田 1981 番地)

医療イノベーション埼玉ネットワークでは、医療機関の医療者と医療機器メーカー、ものづくり企業が連携し、新たな医療機器を開発する取り組みとしてニーズマッチングを開催いたします。  
今回は、昨年度も開催し大変好評だった埼玉医科大学の付属病院である総合医療センターから、最新の臨床ニーズを提案いただきます。医療従事者と連携し医療機器開発を推進したい企業の参加をお待ちしております。

## 臨床ニーズ発表会(17課題)

看護部、内視鏡センター、  
救命集中治療室、  
集中治療室、  
小児集中治療室、  
新生児集中治療室、  
血液浄化センター、  
手術部、ER 等



## アクセス

### <電車の方>

- 川越駅東口より東武バス
- (上尾駅西口・平方・埼玉医大・川越運動公園行き) (25分) 埼玉医大下車
- JR高崎線 上尾駅西口より東武バス(川越駅行き) (20分) 埼玉医大下車

### <車の方>

- 関越自動車道 川越インターより8km、約15分
- 県道51号線(川越上尾線)沿い

県内外の医療機器メーカー  
医療機器関連製造業など

問合せ  
申込み

公益財団法人 埼玉県産業振興公社 先端産業支援センター埼玉

医療イノベーション担当: 有海・高橋

さいたま市中央区上落合2-3-2 TEL 048-711-6870

URL <https://www.saitama-j.or.jp/seminar/saitamaika/>

右のQRコード、または以下にご記入のうえFAXでお申込下さい。



参加申込書

企業名				
住所		〒		
		TEL		FAX
お一人目	氏名			所属・役職
	E-Mail			
お二人目	氏名			所属・役職
	E-Mail			

※ 会場スペースの関係上、1社2名様までの参加をお願いします。

**SIPC**

お申込は  
FAXで

公益財団法人 埼玉県産業振興公社  
FAX / 048-857-3921  
番号のお間違えに御注意下さい！

# 臨床ニーズ発表会

No.	開発するデバイスの種類	デバイス開発の背景 (臨床現場の現状と問題点)
1	車椅子の改良	尿道留置カテーテルを留置中の患者が車椅子に乗車する際、車椅子へウロメーターバッグを固定する場所がなくて困っている。また、車椅子で移動する際、チューブが長いために車輪に絡んでしまう。
2	自動採血機	採血が困難な患者が少なからずいる。患者の血管の上にのせると自動的に採血してくれる装置を開発してほしい。
3	血管をみえやすくするメガネ	末梢ラインを確保する際、確保するのが困難な患者がいる。そこで、ラインを確保するために、血管が見えやすくなるメガネ(ゴーグル)が欲しい。
4	洗髪車の改良	洗髪車の多くはコンパクトに収納できる。実際に洗髪車を使用する際には、患者はベッドサイドに大きく体を傾けなければならない。医療デバイスが多い患者の場合には、使用が困難な状況にある。また、洗髪車は成人を対象としているため、小児には使用しにくいという欠点がある。そこで、サイズや可動域が多様な洗髪車を開発すると、看護ケアの環境が大きく改善すると考えられる。
5	血圧計・体重計とスマホとの連動	病室の各廊下に血圧計と体重計を置いている。患者自身が測定し記録してもらっているが、記録違いがある。患者のネームバンドと血圧・体重測定値が電子カルテと連動できないか、もしくは、患者のスマートフォンと連動できないか。
6	眼科術後の下向き枕	眼科術後に医師からベッドでの患者は下向き何度と指示がある。自動で調節してくれる自動枕があるが、患者自身でも調節を行うことができ、指示と異なる角度で使用すると予後にも影響すると思われるので、患者が角度を調節できない枕が欲しい。
7	側臥位での高さを変えられる枕	側臥位で検査を受ける枕の高さは一定である。体格や肩幅は人により違うため、高さを変更できる枕が欲しい。
8	検査時の足固定補助具(足助)	内視鏡検査時(大腸カメラ)、患者の体位が困難な時がある。特に、側臥位になり、足を組む姿勢を保持しているのが苦痛な患者さんがいるため、その足を固定・保持出来るものがあると便利と考える。
9	人工呼吸器装着患者とのコミュニケーションツール	人工呼吸器装着患者とのコミュニケーションは、現在確立したものではなく、文字盤への指差しや文字を書いてもらいコミュニケーションをとっている。特に、上位の脊髄損傷患者は、上肢が動かないため、指差しや文字を書くことができず、口の形(口パク)から言葉を読み取っており、読み取ることができないことも多く、おたがいに負担になっている。ALS患者のようにハンドフリーキーボード・視線入力装置などの高額な装置はなく、この分野については、進んでいないのが現状である。
10	バーチャル・リアリティ(VR)ソフトを用いた看護教育シミュレーション	国民全体が医療安全に対する意識の高まりや看護師の倫理意識の向上により、看護現場では、看護行為を患者に実践する前に、シミュレーションを実施している。病棟や病室とかけ離れているので、シミュレーションは場所や機材等を準備する必要がある。そこで、VRを用いることで安価でより臨床現場に近いシミュレーション教育を実施することが可能と考えた。
11	脳波測定をもっと簡単にできないか	脳波を測定する時に困っていることがある。電極1つ1つにクリームを付けて装着しなければならない。小児の場合、動いてしまい付け直す回数が多い。病棟で簡易的に24時間測定を行う際体位変換をするたびに電極が取れてしまうので、テープで付けている状態である。
12	ストレスを感じない体温計	新生児用の小さな体温計はなく、通常の一一般に市販されている皮膚温計・直腸計を使用している。新生児用の耳で計測できる体温計は市販されており、使用したことがあるが、誤差が大きく使用できなかった。新生児にも使用できる、小さな(細い)体温計を作っていただきたい。
13	手術室用点滴スタンド	現在の点滴スタンドは、患者が安全に使用できるように作られている。重心が下にあり、ストッパーはないが、可動制限が可能で、地震の時にある程度動くが、飛んで行かない等手術室で使用する場合、重量などの検討が必要である。これらの条件を満たす点滴スタンドが欲しい。
14	手洗確認装置	手術部では、手洗が必須であり重要な行為である。しかし、綺麗に手が洗えているか、容易に確認することができない。グリッターバグや菌の培養での確認では時間やコストもかかる。簡便に手洗後に洗い残しを確認したい。
15	手術室の入退出カウント装置	手術室は清浄な空気が維持できるようになっているが、人の出入りが多く空気の乱流が起こり、感染のリスクが高まる。空気の流れは目に見えないので、感染リスクを知るために手術室の扉の開閉を簡便にカウントしたい。
16	医療用ローラー式前腕マッサージ機器	シャント血管造設患者では、「シャント血管の血流維持・閉塞予防」を目的に、徒手で前腕(手首)をマッサージする。徒手マッサージの皮膚を擦る動作では、摩擦力・圧力などを均一にできず、効果を数値化することもできない。誰がやっても均一な圧でマッサージできる医療用ローラー式マッサージ機器を望む。
17	エコーのプローベコードを破損・感染から守りたい	エコーは、患者に侵襲がなく、簡便な検査である。救急でも緊急性の判断や副作用のある造影剤使用の判断などに、患者を移動させず、エコー機器を簡単に患者の診察室や病室まで移動させる事ができるので、頻回に行われている。その際、高価な(1本100万円)プローベの長いコードを引きずったり台車で踏み込んでしまうことを多く見かける。コードを引きずらない工夫(巻き取る、パネ式)ができないか？

※上記は予定であり、都合により変更する場合があります。